

第9回留学報告書

五年目の冬学期が終了しました。今回のレポートでは今学期までの研究の様子を報告いたします。

まず、これまで単著で取り組んできたドラフトをひとまず完成させることができました。現在、指導教授がドラフトをチェックしてくださっており、今後は学術雑誌への投稿を目指して参ります。この研究を通じてたくさんの重要なことを学ぶことができました。研究の初期段階に思い付いた生焼きのアイデアをいかにして磨き上げていくか、そして分野の専門家だけでなく、なるべく広い読者にも意義が伝わる研究にすることができるか、究極的には誰のために論文を書いているのか。今後の研究においては、このようなことをより高いレベルで実行していきたいと思えます。

さらに一年後の就活に備えて、ジョブマーケットペーパーのプロジェクトにも取り組んでいました。指導教授たちを満足させるような面白いリサーチクエストを探すことは大変難しいものですが、ひとまずそのようなものを見つけることができました。今後はそれに応えるために、どれくらいスケールまで理論的および実証的フレームワークを大きくしていくことができるかが重要になっていきます。研究上の不確実性はもちろんありますが、何よりもここにきて一番研究を楽しんでいて、朝起きるとワクワクしてオフィスに行っています。

私がこのクエストを思い付いたきっかけは今年の春学期に聞いたセミナーでの研究報告でした。そのプレゼンターは私の専攻であるマクロファイナンスと言われる Financial Economics と Macroeconomics の大御所でした。そのときのセミナーは盛り上がりを見せており、本学の教授陣を惹きつけていました。私はその研究の大きなアイデアは面白いと思ったのですが、どうしても納得のいかないポイントがありました。しかし、その疑問がなぜ重要で、どう乗り越えていけば良いのかを思いつくのはまだ先のことでした。

留学してから四年が経ち、少しずつの成長を実感しております。末筆になりますが、このような機会を下さった御財団に改めて感謝申し上げます。今後とも日々精進してまいりますので、何卒よろしくごお願い申し上げます。